クラウドサービス
セキュリティガイドライン

2.0版

2024年05月

サイバーソリューションズ株式会社

目次

1　お客様との責任分界点 3
2　データ保管先 3
3　データの返却と削除 3
4　データのバックアップ 4
5　装置の安全な処分 4
6　暗号化の状況 4
7　マニュアルの提供 4
8　ログのクロックに関する情報 4
9　脆弱性管理に関する情報 4
10　インシデント発生時の対応 4
11　適用法令 4
12　認証 5
13　外部クラウドサービスの利用 5
改定履歴 6

1　お客様との責任分界点

当社の責任

当社は、以下のセキュリティ対策を実施します。

- 当社が提供するサービス（CYBERMAIL Σ、CYBERMAIL Σ ST、MAILGATES Σ、ENTERPRISEAUDIT Σ、Cloud Mail SECURITYSUITE、EMERGENCYMAILのセキュリティ対策
- サービス内に保管されたお客様データの保護
- サービスの提供に利用するミドルウェア、OS、その他インフラのセキュリティ対策

お客様の責任

お客様は、以下のセキュリティ対策を実施する必要があります。

- パスワードの適切な管理
- アカウントの適切な管理（登録、削除、管理者権限の付与など）
- 蓄積情報の適切な管理（アドレス帳、メールデータなど）

2　データ保管先

- サービス上に保存したデータは、以下の国に保管されます。
  - 日本

3　データの返却と削除

当社が提供するサービスの契約管理者がサービス解約手続きを行った場合に、サービス上に保存されたデータを削除します。
原則、データ返却は行いません。

- 削除条件
  - 解約申込書により解約手続きを実施済みであること。

- 削除タイミング
  - 解約申込書記載のデータ削除日の翌月10日に、全データの削除を実施します。
  - 削除時の事前連絡は弊社からは行いません。

- 削除対象
  - サービス上に保管された全てのお客様データ（メールデータ、アカウント情報、アドレス情報など）。

4　データのバックアップ

- ストレージのスナップショット＆レプリケーション機能を利用し、バックアップを実施します。
- 1日1回別ロケーションのデータセンターへ遠隔地バックアップを実施し、過去7日間分を保存します。
- バックアップデータは、サービス全体の復旧を目的としており、個々のお客様データの個別復旧をお約束するものではありません。

5　装置の安全な処分

- 当社はお客様が利用した装置を廃棄する際には、適切な廃棄専門業者に依頼し廃棄を行います。
  また、データ消去証明書・廃棄証明書を発行し確実な方法で廃棄していることを確認します。
- IaaS 等のクラウドサービス環境を利用している場合は、クラウドサービスプロバイダーに装置の適切な処理を確認します。

6　暗号化の状況

- サービス上に保管されるお客様の各種情報（氏名、メールアドレス、各機能で利用するデータなど）は、ストレージ上では暗号化して保管しております。
- お客様の端末と、システムとの間のインターネット通信は、TLS/SSL 通信(SHA256)にて暗号化されます。お客様の利用環境によって選択できるように、システム側は対応しています。

7　マニュアルの提供

- お客様が利用できるマニュアルは、サポートサイトで閲覧することが可能です。

8　ログのクロックに関する情報

- サービス内で提供されるログは、タイムゾーン JST(UTC+9)で提供されます。

9　脆弱性管理に関する情報

- 当社は、システムで利用している OS、ミドルウェア等に関する脆弱性情報を、定期的に収集しています。
- システムで利用しているコンポーネントに対する脆弱性パッチが公開された場合は、優先度・適用時期等の検討を行い、適用する場合は、テスト環境での検証を経た後、速やかに適用します。

10　インシデント発生時の対応

- お客様に大きな影響を与えるセキュリティインシデント(データの消失、長時間のサービス停止、情報漏洩等）が発生した場合、事象の全容確認完了後、24時間以内にメールなどの手段を通じ連絡します。
- 情報セキュリティインシデントについて、監督官庁に報告し、インシデントの証拠開示については、監督官庁の指示に従います。

11　適用法令

- お客様と当社との間の契約は、日本法に基づいて解釈されるものとします。

12 認証

- 当社は、情報マネジメントシステム認定センター(ISMS-AC)が運営する ISMS 適合性評価制度における、ISMS 認証を取得しています。
- 当社は、情報マネジメントシステム認定センター(ISMS-AC)が運営する ISMS 適合性評価制度における、ISMS クラウドセキュリティ認証を取得しています。

13 外部クラウドサービスの利用

- 当社では、次に示す機能を運用するために、外部のクラウドサービスを利用しています。

クラウドサービス	データ保管先	機能	運営会社	情報
Oracle Cloud Infrastructure	日本	メール中継 APIGW ウイルスパターンファイル更新 ファイル無害化	ORACLE	中継ログ ドメインデータ ウイルスパターンファイル 添付ファイル

改定履歴

版	改定日	改定内容
1.0	2019/12/01	初版発行
1.1	2020/07/08	認証について記述修正
1.2	2020/07/27	当社の責任について内のサービス名訂正
1.3	2021/02/22	文書名を変更
1.4	2021/03/19	「10 インシデント発生時の対応」へ目標通知時間を追記
1.5	2022/09/01	「13 外部クラウドサービスの利用」へOracle Cloud Infrastructureを追記
		「3 データの返却と削除」のデータの削除について、事前連絡は行わない内容に変更
1.6	2023/03/07	「13 外部クラウドサービスの利用」からNifty Cloudを削除
1.7	2023/07/31	「13 外部クラウドサービスの利用」からFast Sanitizerを削除 「13 外部クラウドサービスの利用」へSanitizerを追加 MAILBASE Σのサービス名称をENTERPRISEAUDIT Σに変更 G Suiteの名称をGoogle Workspaceに変更
1.8	2023/09/01	「2 データ保管先」からFast Sanitizerを削除 「3 データの返却と削除」の削除タイミングの記述を修正 「13 外部クラウドサービス」からAmazon Web serviceを削除 「13 外部クラウドサービス」Oracle Cloud Infrastructure内にファイル無害化を追加。
1.9	2023/10/27	「1 お客様との責任分界点」のCloud Mail SECURITYSUITEの名称を変更。 「2 データ保管先」からサービス上にデータを保管した際の文言を削除。 「13 外部クラウドサービス」にデータ保管先を追加
2.0	2024/05/07	6 暗号化の状況 10 インシデント発生時の対応 上記項目の説明文言の修正